

2004年11月アルゼンチンの政治情勢

2004年12月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

2005年議会選挙が10月23日に全国で一斉に実施される可能性が高まった。その他、政府が提出した経済危機法延長法案、2005年度予算法案が議会で可決成立した。

外交面では、チリで行われたAPEC首脳会談の機会を利用して、盧武鉉韓国大統領、胡锦涛中国国家主席、ドゥック・ルオン・ベトナム国家主席等アジア諸国の首脳がアルゼンチンを訪れた。アルゼンチンのメディアでとりわけ大きく扱われた中国に関しては、中国が今後5-10年間で総額197億1000万ドルの投資を行うことを検討する旨の5つの趣意書に両国が署名した他、アルゼンチンが中国を「市場経済国」と認定した。その他、キルチネル大統領は、コスタリカで開催されたイベロアメリカサミットに出席した。

2. 内政

(1) 2005年議会選挙

10日、上院は、来年から国政選挙（大統領、副大統領及び連邦上下両院議員）を10月の第4日曜日に行う旨規定した選挙法改正案を可決した。今後、下院での審議を経て成立すれば、来年10月23日に全国で一斉に議会選挙が行われることになる。同議会選挙では、下院127議席、上院24議席が改選される。

(2) 経済危機法の延長

2002年1月、ドゥアルデ政権下（当時）で、経済危機に対処するため、民営化企業との料金交渉、金融システム改革、為替政策等に関して広範な裁量を行政府に付与する経済危機法（法律25561号）が議会で成立したが、24日、下院は、同法の効力を2005年末まで延長する法案を可決成立させた。なお、同法は、経済危機下で労働条件を悪化させないため、雇用主が正当な理由なく従業員を解雇した場合に、解雇金を約2倍にする内容も含んでいる。

(3) 最高裁人事

(イ) 11日、下院弾劾審議委員会は、職務怠慢によりボジャノ最高裁判事の弾劾審議決議案を採択した。以後、下院本会議で同案件が扱われることになるが、キルチネル大統領は、同判事の弾劾に反対していると言われている。

(ロ) 他方、既に上院の承認を得ているアルヒバイ最高裁判事候補は、現職の旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所判事としての業務との関係で、来年2月までは最高裁判事に就任で

きない模様。

(ハ) 現在、最高裁は、9席の内2席が空席となっている。

(4) 軍政時代の人権侵害

2003年8月、議会は、軍政時代の人権侵害を不問にする2つの免責法である終結法及び服従法の遡及的無効を規定する法案を可決させたが、22日、サンマルティン連邦裁判所は、遡及的無効を規定する同法は、法的安定性を阻害し、違憲であるとの判決を下した。同判決は、遡及的無効を決定する権限は司法府にあり、立法府の権限を越えているというもの。7月13日には、類似の事件で、ブエノスアイレス市連邦裁判所が同法の合憲判決を出しており、司法の判断が統一されていないため、今後、上級審の判断を待つことになる。

(5) ピケテロ

(イ) チャコ州のカジノ占拠事件における脅迫容疑で逮捕されていた強硬派ピケテログループ MIJD のカステルス代表は、9日、首都において、釈放後初めてのデモを行った。

(ロ) 25日、ウルソ連邦判事は、ボカ地区警察署占拠事件(6月26日)に関する容疑で政府寄りピケテログループ FTV のデアリア代表の逮捕を命じた。但し、ブエノスアイレス州下院議員でもあることから、議員特権により拘束されていない。

(ハ) 毎月26日は、2002年6月に死亡したピケテロメンバー2名を偲んでピケテログループによるプエイレドン橋(ブエノスアイレス市南部郊外)の封鎖が行われているが、今回は、同橋を全面封鎖させないため警察官が配備された。CCC、MTD-Anival Veron の穏健派メンバーらは、一部封鎖だけを実施した。

(6) 大統領の安全

(イ) 大統領専用機タンゴ01のエンジントラブル、オリーボス官邸への不審者侵入に続き、17日、キルチネル大統領は、第3回スペイン語世界会議に出席するため、大統領専用機タンゴ10でロサリオ市に向かう際、離陸前に整備上のトラブルが見つかり、別の飛行機に乗り換えることになった。

(ロ) 26日、キルチネル大統領の娘フロレンシア(13歳)が通う学校に不審者が侵入した。不審者は、そのまま逃亡した。

(7) 銀行爆発事件

17日、ブエノスアイレス市カバジート地区、バリオ・ノルテ地区、パレルモ地区の3つの銀行で爆弾が爆発し、警備員1名が死亡、警察官1名が軽傷を負った。同日、外国要人として、胡錦濤中国国家主席、ハリー英国王子、スペイン国王がアルゼンチン入りしていたが、同要人らに対する被害はなかった。

3. 外交

(1) 韓国

(イ) 14-16日、盧武鉉韓国大統領はアルゼンチンを訪れた。盧武鉉大統領は、アルゼンチンに滞在中、韓国人コミュニティー関係者との懇談、キルチネル大統領との会談、企業関係者との昼食会、イバラ・ブエノスアイレス市長との会談、議会訪問（シオリ上院議長（副大統領）、カマーニョ下院議長、ピチュット・ペロン党上院議員団長、ロサダ急進党上院議員団長、プエルタ上院外交委員長、アルグエージョ下院外交委員長等と会談）、アルゼンチン・韓国経済委員会、国立ブエノスアイレス大学名誉博士号授与式、キルチネル大統領主催夕食会等に参加した。

(ロ) 首脳会談において、両大統領は、「韓国輸出入銀行及び亜ナシオン銀行の間の融資に関する覚書」に署名した。同覚書は、韓国が韓国輸出入銀行を通じて、韓国製品のアルゼンチンへの輸出のために、3000万ドルを亜ナシオン銀行に融資するというものである。また、両大統領は、「情報及び通信技術に関する協力合意」、「エネルギー及び天然資源に関する協力合意」、「教育及び文化に関する協力合意」、「経済及び貿易に関する協力合意」の4つの合意書に署名した。

(ハ) 盧武鉉大統領は、「21世紀に共に繁栄するために、様々な分野での協力関係を強化する合意に至った。このために両国は、メルコスールの他の構成国の同意の下、韓国メルコスール間の自由貿易協定締結に向けた共同研究を実施することに合意した」と述べた。

(ニ) 両国は、二国間関係、北朝鮮核問題、核エネルギー、国連改革、犯罪防止、東アジア・ラテンアメリカ協力フォーラム（FEALAC）、韓国・メルコスール関係、WTO、米州開発銀行（IDB）、科学技術、文化等に関する共同宣言を発出した。

(ホ) キルチネル大統領は、首脳会談において韓国側から韓国訪問の招待を受け、同日の夕食会で、2005年の韓国訪問が表明された。

(2) 中国

(イ) 16-18日、胡錦濤中国国家主席がアルゼンチンを訪れた。アルゼンチンでは、胡錦濤国家主席が訪亜する前から、中国が200億ドルの投資を行うといったものや、中国がアルゼンチンの対IMF及び対一部国際機関の債務200億ドルを肩代わりする等の憶測が流れたこともあり、同国家主席の訪亜は、メディアでとりわけ大きく扱われた。

(ロ) 胡錦濤国家主席は、キルチネル大統領、ペトラッキ最高裁長官、ラバーニャ経済相、イバラ・ブエノスアイレス市長等、上下両院議長との会談、議会での演説、五月広場（大統領府前）での騎兵連隊観閲式、キルチネル大統領主催夕食会、企業関係者との懇談、サンマルティン像への献花等を行った。また、バリローチェ（アルゼンチン南部リオネグロ州）にも訪れ、サイス・リオネグロ州知事と共に衛星事業、原子力開発等を行う公社Invapを見学した。

(ハ) 両国首脳は、二国間協力、鉄道事業、衛星事業、教育、観光に関する5つの覚書に署名した。また、両国は、今後5－10年間で総額197億1000万ドルの投資を行うことを検討する旨の5つの趣意書に署名した(衛星技術：2億6000万ドル、通信分野：4億5000万ドル、油田関連活動：5年間で50億ドル、一般住宅建設及びその他のインフラ事業：5年間で60億ドル、鉄道サービス事業：10年間で80億ドルの投資)。

(ニ) アルゼンチンは、中国を「市場経済国」と認定した。当初、キルチネル大統領は、中国の市場経済国認定を拒否しており、反対に、中国はアルゼンチン産果物や肉類に対する検疫障壁撤廃に反対してきた。しかし、首脳会談後も、両首脳が電話で交渉を続けた結果、18日、アルベルト・フェルナンデス首相は、アルゼンチンが中国を市場経済として認定すると同時にアルゼンチン産品を中国に輸出拡大する覚書に両国が署名したことを発表した。中国の市場経済国認定により、国内産業界からは中国産品大量流入の可能性に対する懸念と批判が出ている。

(3) イベロアメリカサミット

(イ) 19日朝、キルチネル大統領は、第14回イベロアメリカサミットに出席するため、コスタリカへ出発した。当初、キルチネル大統領は、同サミットに欠席するつもりであったが、17日、サンタフェ州ロサリオ市で開催されている第3回スペイン語世界会議に出席していたファン・カルロス・スペイン国王の示唆を受けて、急遽同サミットに出席することを決定した。

(ロ) キルチネル大統領は、サパテロ西首相と会談した。同首相は、フィルムス・アルゼンチン教育相が UNESCO に対して提案していた対外債務支払いの一定割合を債務国の基礎教育に割り当てる旨の提案を受け入れた。但し、同提案の受け入れは、一般的な形でなされたものであり、具体的に何パーセントの債務が対象となるかや、どのような形で実現されるのかについては定められていない。

また、サパテロ西首相の訪亜が、2005年1月19日に行なわれることになった。

(ハ) 同サミットでは、教育問題、マルビーナス領有権問題、イベロアメリカ機構の執行機関として常設事務局創設等が話し合われた。

(4) ベトナム

(イ) 21－23日、ドゥック・ルオン・ベトナム国家主席が、アルゼンチンを訪れた。同国家主席は、キルチネル大統領との会談、Atucha I原子力発電所訪問(ブエノスアイレス州サラテ市)、アルゼンチン政府主催の夕食会(キルチネル大統領欠席)、最高裁及び議会訪問、イバラ・ブエノスアイレス市長との会談、両国企業関係者との懇談を行った。

(ロ) 両国首脳は、二国間貿易の促進、アルゼンチン輸産品に対する関税引き下げ、原子力分野での協力、ベトナムのWTO入り(亜が支持表明)等について合意に至った。

(5) 米国

(イ) キルチネル大統領は、大統領選挙で再選が確定したブッシュ米国大統領に対して、祝詞を送った。アルゼンチンでは、ブッシュ大統領の再選により、二国間関係に大きな変化は生じないと見られている。

(ロ) 両国政府は、キルチネル大統領とブッシュ大統領の米国での首脳会談が、2005年上半期に実現できるように調整中である。他方で、2005年11月にマルデルプラタ市（ブエノスアイレス州）にて行なわれる予定である第4回米州サミットに、ブッシュ大統領が参加する可能性がある。

(6) 南米・メキシコ国会議長会議

29日、南米の主要国（アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、コロンビア、チリ、エクアドル、ペルー、パラグアイ、ウルグアイ）及びメキシコの国会議長がアルゼンチンに集まり、南米共同体構想支持を表明した。

(7) 要人往来

(イ) 来訪

11月1日 バウティスタ・メキシコ外相

11月11日 カルネイロ・ベネズエラ国防相

11月11日 インスルサ・チリ内相

11月14－16日 盧武鉉韓国大統領

11月16－18日 胡錦濤中国国家主席

11月17－20日 カルロス・スペイン国王（スペイン語世界会議出席）

11月17－20日 バダウィ・マレーシア首相

11月21－23日 ドウック・ルオン・ベトナム国家主席

11月22－26日 ダレーマ伊元首相

11月24日 アモリン・ブラジル外相

11月29日 コシオ・コルテス・ボリビア下院議長、Suplicy ブラジル上院外交防衛委員長、De Mello Monteiro ブラジル下院第二副議長、ゴメス・ガジョ・コロンビア上院議長、ハティン・コラレス・コロンビア下院議長、ラライン・フェルナンデス・チリ上院議長、ロレンシーニ・バツソ・チリ下院議長、ランダスーリ・カリージョ・エクアドル議長（一院制）、チャウランド・アルサテ・メキシコ上院副議長、ベルトロネス・リベラ・メキシコ下院議長、カリソサ・ガリアノ・パラグアイ上院議長、サロモン・パラグアイ下院議長、デラマタ・デプエンテ・ペルー第二副議長（一院制）、アロンソ・ウルグアイ下院議長

11月30日－12月2日 ムシャラフ・パキスタン大統領

(ロ) 往訪

- 1 1月2－5日 ビエルサ外相、リオグループ会議に出席するため、ブラジルへ
- 1 1月5－10日 クリスティーナ大統領夫人（上院議員）、「ラテンアメリカ政治における女性」セミナー出席のため、米国へ
- 1 1月16－19日 パンプーロ国防相、米州国防相会議出席のため、エクアドルへ
- 1 1月19日 キルチネル大統領、イベロアメリカサミットに出席するため、コスタリカへ（アルベルト・フェルナンデス首相、ビエルサ外相、アニバル・フェルナンデス内相、フィルムス教育相、アルグエージョ下院外交委員長同行）。
- 1 1月25日 フェルナンデス内相、メルコスール会議出席のため、ブラジルへ
- 1 1月28－29日 ビエルサ外相及びパンプーロ国防相、ウォーケル・チリ外相及びラビネ国防相と会談するため、チリへ

(8) 12月以降の主要外交日程（予定）

(イ) 来訪

- 1 2月3－6日 モハメッド6世モロッコ国王
- 2005年
- 1 月26－27日 サパテロ・スペイン首相

(ロ) 往訪

- 1 2月9日 シオリ副大統領、南米サミット出席のため、ペルーへ（ビエルサ外相同行）
- 1 2月12－17日 アルベルト・フェルナンデス首相及びクリスティーナ夫人（上院議員）、サパテロ首相及びカルロス国王と会談するため、スペインへ
- 1 2月13－14日 ビエルサ外相、アナン国連事務総長及びパウエル国務長官と会談するため、米国へ
- 1 2月15日 ビエルサ外相、フィッシャー外相と会談するため、ドイツへ
- 1 2月17日 キルチネル大統領、メルコスール首脳会議出席のため、ブラジルへ（ビエルサ外相同行）